

立地適正化計画

なごや集約連携型 まちづくり プラン

魅力ある「名古屋ライフスタイル」を
育む大都市の形成のために



令和5年3月

名古屋市

もくじ

1章	はじめに	1
	1. 策定について	2
	2. 位置づけ	7
2章	本市の状況と課題	9
	1. 本市の状況	10
	2. 課題と対応の方向性	24
3章	目標と基本方針	27
	1. 目標	28
	2. 基本方針	29
	3. 基本的な区域とまちづくりの方向性	34
4章	誘導区域と誘導する施設	39
	1. 施設の整理と誘導の考え方	42
	2. 都市再生特別措置法に基づく誘導区域と施設の設定	47
	3. 居住誘導区域内も含めた災害リスクへの対応	60
5章	誘導のための施策の方向性	63
	1. 誘導のための施策の方向性	64
	2. 居住や都市機能の誘導のための防災指針 ※詳細は別冊参照	70
	3. 低未利用土地の有効活用に関する取組	71
	4. 集約連携型都市構造の実現に向けた土地利用計画の運用	75
6章	プランの評価	79
	1. 評価指標の設定	80
	2. プランの推進と評価	81
	資料	83

1章 はじめに

1. 策定について（背景と目的、策定の視点）

2. 位置づけ（位置づけ、対象区域、目標年次）

2章 本市の状況と課題

1. 本市の状況

- (1)土地利用
- (2)人口構造
- (3)交通
- (4)住宅
- (5)日常生活施設・都市機能増進施設
- (6)価値観・ライフスタイル
- (7)財政・公共施設
- (8)「リニア中央新幹線」の開業・
「アジア・アジアパラ競技大会」の開催
- (9)環境
- (10)災害

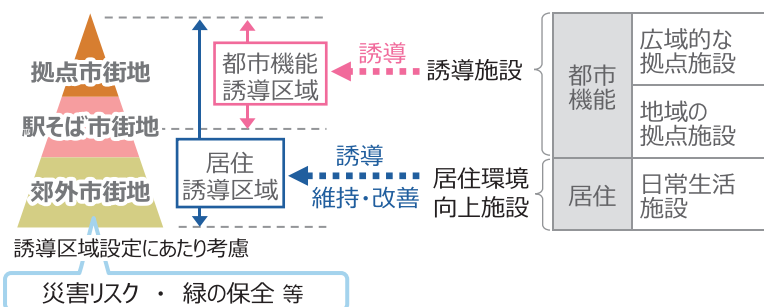
2. 課題と対応の方向性

- リニア時代に向けた都市ブランドの構築 1 2
- 人口減少を見据えたまちづくりの推進 1 2 3 4
- 高齢者が元気で生活しやすい環境の構築 2 3
- 多様な主体をむすぶ新たなつながりの創出 1 2 3
- ストックの利用を重視した成熟都市への転換 2 3 4
- 都市の持続的な経営に資するまちづくりの推進 2 3 4
- 環境に配慮したまちづくりの推進 2 4
- 市街地の広範囲に存在する災害リスクへの対応 5

4章 誘導区域と誘導する施設

1. 施設の整理と誘導の考え方

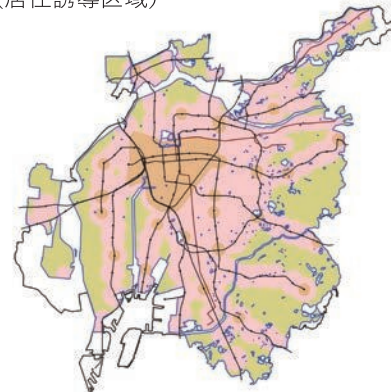
2. 都市再生特別措置法に基づく誘導区域と施設の設定



（都市機能誘導区域）



（居住誘導区域）



3. 居住誘導区域内も含めた災害リスクへの対応

（要安全配慮区域の設定、防災指針の作成）

3章 目標と基本方針

1. 目標

魅力ある『名古屋ライフスタイル』を育む大都市の形成

2. 基本方針

1 都心や拠点の魅力向上・創出

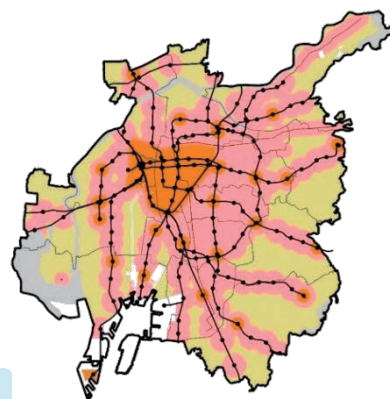
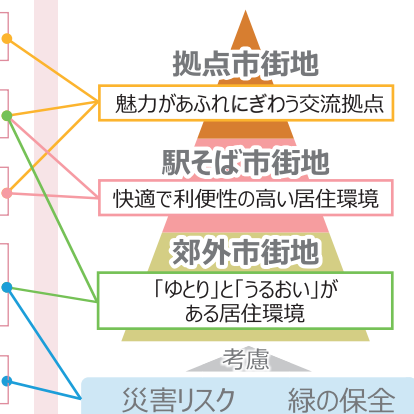
2 さまざまな世代が活動しやすいまちづくり

3 成熟した市街地を活用したまちづくり

4 ゆとりある郊外居住地の持続と新規開発の抑制

5 災害リスクをふまえたまちづくり

3. 基本的な区域とまちづくりの方向性



5章

誘導のための施策の方向性

1. 誘導のための施策の方向性

具体的な取組例

2. 居住や都市機能の誘導のための防災指針

3. 低未利用土地の有効活用に関する取組

4. 集約連携型都市構造の実現に向けた土地利用計画の運用

別冊 居住や都市機能の誘導のための防災指針

1. 防災指針とは

2. 災害リスク分析

ハザード情報

都市の情報

3. 取組方針

ハザード低減	災害をできるだけ防ぐ・減らすための取組
リスク回避	被害対象を減少させるための取組
リスク低減	被害の軽減・早期復旧・復興のための取組

4. 具体的な取組

5. 防災指針の推進に向けて

6章 プランの評価

1. 評価指標の設定

- ・評価指標（プランの推進を評価する目標）
 - ▷ 拠点市街地及び駅そば市街地の人口密度：84人/ha以上（目標値）
- ・確認指標（まちづくりの状況を把握する主な指標）

2. プランの推進と評価

